

放射線療法の提供体制構築に資する研究（21EA1010）

研究分担者 谷 謙甫
ユーロメディテック株式会社医学物理室 室長（医学物理士）

研究協力者 木場 律子 ユーロメディテック株式会社
研究協力者 佐久間 慶 ユーロメディテック株式会社
研究協力者 松本 和樹 ユーロメディテック株式会社
研究協力者 香坂 浩之 ユーロメディテック株式会社
研究協力者 倉谷 頼典 ユーロメディテック株式会社
研究協力者 大石 麻紀 ユーロメディテック株式会社

研究要旨

本分担研究は「SDM (Shared Decision Making) 実現のための現状の課題と施策の考察研究」とした。近年、多くのがん治療方法があり

A. 研究目的

近年、がん治療方法には様々な選択肢がある。がん患者が治療方法選択を行う方法の1つにShared Decision Making (SDM) という考え方が、近年提唱されている。SDMとは、質の高い医療決断を進めるために、最善のエビデンスと患者の価値観、好みを結合させるための医療者と患者間の協働のコミュニケーション・プロセスと定義されている (SpatzES, JAMA, 2016)。本研究では、SDMを理想的な治療方針決定方法として現状を評価し、SDMが普及していくための現状の課題とその施策を考察する

B. 研究方法

本分担研究では対象疾患を前立腺がんにした。そしてまずSDMを実現している、またはそれに近い3施設へ診療プロセスのインタビューを実施した。このインタビュー内容からSDMを実現するために診療プロセスで重要となる仕組みや、課題を抽出した。それから情報に基づき、多施設アンケート内容を作成した。多施設アンケートは日本放射線腫瘍学会、および日本泌尿器科学会を通じて、全国の放射線治療医および泌尿器科医へ依頼した。アンケートはWeb形式で実施期間は2022年4月27日～5月17日とした

（倫理面への配慮）

アンケートは患者個人情報含まれず、結果を公表する際には施設名が公表されない形をとる。

C. 研究結果

現在アンケート実施期間中であるため、詳細な結果は次年度に報告する。2022年5月13日現在、282件（放射線治療科186件、泌尿器科96件）の回答。アンケート前に実施したSDMを実現していると考えられる施設へのインタビューでは泌尿器科と放射線治療科の両科の診察を受け患者自身が治療方針を決定する仕組みが構築されている施設があった。また電子カルテを使用した診療科間のスムーズな情報連携や、キャンサーボードの定期的な取組みが診療科横断的な情報共有を可能にしていることが分かった。

D. 考察

現在アンケート実施期間中であるため、詳細な結果は次年度に報告する。

E. 結論

現在アンケート実施期間中であるため、詳細な結果は次年度に報告する。

G. 研究発表

詳細な結果解析後、検討する。

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし